

豊橋北部土地改良区

○地域の魅力

当地域は、豊橋市の北東部に位置し、市の特産である次郎柿をはじめ、梨、もも、ぶどうなどの果樹栽培やイチゴや大葉などのハウス栽培が盛んです。

また、縄文時代の洞窟遺跡である嵩山蛇穴や、県内最大の横穴式石室を持つ、6世紀後半の前方後円墳である馬越長火塚古墳といった、二つの国指定史跡のほか、江戸時代に象が通ったとされる姫街道、人力の船としては愛知県内で唯一現存する「牛川の渡し」など、歴史遺産も多く残る地域です。

現在、石巻萩平地区で豊橋市初となる東名高速道路のスマートインターチェンジの建設事業が進んでいます。

○組織概要

受益面積	990ha
受益地	豊橋市北東部
組合員数	2,108人
総代数	44人
役員数	17人
設立	昭和42年（1967年）
職員数	2人

○取り組み

農業用水の供給については、豊川総合用水土地改良区と連携して、配水計画に基づき用水量の確保と配水に努めています。

また、揚水機場ポンプの更新や、用水路・排水路の改修を行うため、県や市の補助金を活用した単独土地改良事業を実施するとともに、農業用施設の点検、漏水補修などの維持管理を、各地区の多面的機能支払交付金の活動組織などと連携し進めています。

職員の育成については、愛知県土地改良事業団体連合会などが開催するシンポジウムや研修を活用し、職員の資質向上を図っています。